

日時 Date and time	2021年8月10日（火）（50分）13時～ Tuesday, August 10, 2021 (45 minutes) 1:00 p.m.
タイトル Title	中学校に向けたオンライン鑑賞プログラム # 2 「鑑賞と対話」 Online Appreciation Program for Middle Schools # 2 "Appreciation and Dialogue."
	高松市美術館での研修 Training at Takamatsu Art Museum
場所 Location	オンライン Online
参加者 Participant	12人 12 people
鑑賞作品 Art works	岡本太郎「生成 formation」 Taro Okamoto "Generative formation" 田中敦子「電気服」 Atsuko Tanaka "Electric Clothes" 塩田千春「トラウマ／日常」 Chiharu Shiota "Trauma / Everyday Life" 全て高松市美術館蔵 All works in the collection of the Takamatsu Art Museum 画像出典：いま知りたい、私たちの「現代アート」高松市美術館コレクション選集 Image Source: A CONCISE GUIDE TO LIFE WITH JAPANESE CONTEMPORARY ART THE COLLECTION OF TAKAMATSU ART MUSEUM



概要と目的：

参加者に「対話を用いた鑑賞」の方法をレクチャーして手渡し、ペアで鑑賞と対話を行う。対話しながら鑑賞する方法に触れ、対話の中で、自分たちなりの意味を生成する事を試みる。

Overview and Objectives：

Participants will be given a lecture on "Appreciation through dialogue" and will work in pairs to appreciate and dialogue with each other. Participants will be exposed to the method of appreciation through dialogue and will try to generate their own meanings through the dialogue.

美術館側準備：

- ・手元でメモが取れるような準備（左図参照・）
- ・参加者を2人一組のペアにし、ABに分ける
- ・後述の鑑賞シートABを、それぞれ参加者の半数分ずつ用意する。
- ・筆記具
- ・全ての鑑賞作品の解説が載ったシート

Museum preparations

Prepare to take notes at hand (see the figure on the left).

Divide the participants into two pairs, AB.

Prepare an appreciation sheet AB for each half of the participants as described below.

Writing utensils



A sheet with descriptions of all the works to be viewed

内容 contents	詳細 Details	時間	経過
概要説明 Outline Description	<p>あいさつと、レクチャー、プログラムの全体の流れを説明。</p> <p>本日のテーマは、「鑑賞」と「対話」です。 鑑賞を行い、ペアで対話をするというのが今日のプログラムです。</p> <p>前回のおさらいになりますが、 鑑賞とは、作品をよく見て自分なりに色々と考えてみることに設定します。今回もそうですが正解はありません。「あなた自身がそう考えた」ということを一番大事に考えてください。</p> <p>もうひとつのテーマは対話です。対話とは向き合って話すこと。二人以上であれば OK。ただ似たものに、討論、議論、雑談などがあります。この違いは何でしょうか、これについては実際に対話を体験してもらった後半にお話ししようと思います。</p> <p>このような鑑賞と対話を組み合わせた方法は、いろんな場所で行われていますが今日はその入門編ということで、どういう方法で行うと良いのかというのを持ち帰ってもらえればというふうに思います。</p> <p>最初に練習で短い鑑賞と対話を行います。1分作品を見て、感じたこと考えたことをメモに書き出します。その後対話の方法を伝えるので、短い対話を二人一組で行なってもらいます。</p> <p>Greetings and explanation of the entire program. Appreciation and dialogue are the themes of this program. Appreciation of dialogue is done in many places, but this time we will convey the basics of it. As an exercise, we will first look at a work of art for one minute and write down what we feel about it. After that, I will teach them how to have a dialogue and ask them to work in pairs to have a dialogue.</p>	4	4
鑑賞練習 practice	<p>練習の鑑賞作品を 1 分間見て、感じ考えたことを書き出す。</p> <p>Look at the practice work for one minute and write down what you feel and think about it.</p>	2	6

3つの質問をレクチャー	<p>練習のための対話の型を伝えます。基本系を伝えるために、練習では対話を型にはめます。そのため、多少不自然な話し方になるかもしれません。</p> <p>まず今日は作品について話す「話し手」と、話し手の話をよく聞いて質問をする「聞き手」に役割を分けます。A＝話し手 B＝聞き手になります。後で交代します。</p> <p>対話は、「聞き手」のこの質問から始めてもらいたいと思います。 「どんなことに気づきましたか」という質問です。 これは何でも答えられるオープンな質問ですね。何言っても大丈夫です。「話し手」は自分の感じたこと、考えたことをメモを参考にしたり、その場で更に思いついてことも含めて、話してください。</p> <p>そこからポイントになるのが次の質問です。色々話してもらったことを聞いて、「聞き手」は「なぜそう思ったんですか？」と理由を聞いてください。意見や感じたことには、そう考えた何かしらの理由があると思います。その理由は、色々個人差があつてとても面白いです。何気ない感じ方とか考え方かと思っていても、よく理由を聞くとその人ならではの言葉が出てくることがあります。是非理由を聞いてみてください。</p> <p>理由を聞く質問するためには、相手の話をよく聞かなければいけません。どういうポイントを聞いていこうかなということを、「聞き手」は意識しながら相手の話を聞いてください。対話時間が2分なので、1～2つ、この「なぜ？」という質問ができればよいです。たくさんできる人は、質問攻めにしてください。</p> <p>質問する練習なので、「話し手」は「なぜ部分、理由部分」をあまり先走って話しすぎないように気をつけてください。</p> <p>おさらいします。「どんなことに気づきましたか」という「聞き手」の言葉から対話を始めてもらって、それに「話し手」がメモなどを参考にして答える。で、それを聞いた上で「聞き手」が「なぜそう思ったんですか」と理由を尋ねるというラリーを繰り返します。できるだけ2分間、話を続けられるようにしていただければと思います。</p> <p>Teach methods for dialogue. The roles are divided into "talkers" who talk about the work and "listeners" who listen carefully to the talker and ask questions. "The listener begins the dialogue by asking, "What did you notice?" The "speaker" will answer freely about what he or she felt after viewing the work. "After listening to the speaker, the listener asks, "Why do you think that? and ask why. There is a reason for what the other person feels. The reason varies from person to person, and is very interesting. Therefore, the "listener" must listen carefully to the other person to determine at what point to ask the reason. The dialogue will last for two minutes and then the roles will change.</p>	4	10
-------------	--	---	----

練習の 対話	<p>2人ペアになり、話し手と聞き手を交代して、さっきの3つの質問で、それぞれ2分程度対話を行う。</p> <p>「なぜ？」という質問を1回は行うことを目標に。</p> <p>「なぜ？」を連続して聞けるとなおい。</p> <p>Conduct dialogue in pairs.</p>	5	15
確認	<p>代表で1～2名当て、どんな対話があったのかを発表してもらう。</p> <p>Ask the representative to guess one or two people and present what kind of dialogue took place.</p>	3	18
本番の 概要	<p>どうでしたか？</p> <p>次は本番。もう少し長く作品を見て、長く対話をしてもらいます。</p> <p>しかも今回は、お互いが違う作品をしています。お互いの資料がペアで入れ子になっています。赤の枠で囲われたのが、自分の鑑賞する作品、青の枠で囲われたのが、相手の鑑賞する作品です。そして、相手の作品については解説を読むことができます。相手の作品の情報を知っているという、非対称な状況にしています。</p> <p>シートを半分に折ってください</p> <p>本番の流れは、まず赤枠＝自分の鑑賞作品を3分鑑賞し、同じ様に感じ考えたことをメモします。メモの右上</p> <p>次に青枠＝相手の鑑賞作品を3分鑑賞し、感じ考えたことをメモします。メモの右下。</p> <p>その後、対話のヒントをまた伝えるので、 今回は交代で4分ずつ対話を行ってもらいます。</p> <p>Next time, we will look at the work a little longer and We'll have a longer dialogue. You will see different works of art from each other. You can read the commentary about the other person's work. You are in an asymmetrical situation where you know information about the other person's work, and you interact in the same way.</p>	5	23
鑑賞	<p>自分の担当作品を鑑賞</p> <p>Watch your assigned work and write down your thoughts and feelings about it. 3 minutes</p>	3	26
鑑賞 2	<p>相手の作品と解説を読む</p> <p>Watch the work assigned by your partner and read the commentary. Take notes on what you feel and think. 3 minutes</p>	3	29

対話のおさらい	<p>ではここで本番の対話に入る前にもう一度おさらい。</p> <p>基本は「どんなことに気づきましたか？」「なぜそう思いましたか？」 時間が長いので、オリジナルの質問が重要になってきます。よく話をきいて、 どんな質問をすれば良いか考え、対話を続けてください。</p> <p>さきほども話しましたが、相槌や、うなずき、繰り返しなど「あなたの話を聞いていますよ」というサインを出すことがとても大事。対話のテクニックよりむしろ大事。あ、自分の話を聞いてくれている。という安心感で、話がとてもしやすくなる。</p> <p>ここで、対話とは？ということの続きを伝えます。 討論はどちらが正しいかを定める、議論は全体で納得するためにする、雑談は気楽な会話 どれでもない対話とは？</p> <p>話す中で、新しい価値を作ること（話す中で発見があること） 先程、話す中でいろいろ「あ！」「へえ～」と思うことがありませんでしたか？ 相手の意見を聞くことで、話すまでは思いつかなかった、新しいことに気づけるというのが、対話の大きな役割</p> <p>これが、討論の様に勝ち負け＝正誤を決めるわけではなく、議論の様に、2人の意見をまとめるわけでもなく、ただただ話すだけではない、対話の特徴。</p> <p>なので、「聞き手」は、相手の鑑賞した作品の解説＝一般的に正しいとされている情報を読んでいるが、対話はその答え合わせや、正解に導くためにするものではない。むしろ解説と異なること、ズレの中に「新しい価値」「新しい発見」がある。その部分を2人で作り合えば、それこそが対話。</p> <p>Review the dialogue method again. Teach them the importance of nodding, gesturing, and other signs that show you are listening. Dialogue is set as "creating new value" through talking with others. Be aware of creating new values and perspectives through dialogue, not just being consistent with explanations.</p>	5	34
対話	<p>2人ペアになり、先程と同様、それぞれ4分間対話を行う。</p> <p>In pairs, have a four-minute dialogue, switching roles as before.</p>	8	42
整理	<p>先程の対話の中で、 「印象的だった発見・相手の質問や意見」をメモに書き出す。 *評価などをするときの参考にする。</p> <p>During the dialogue, make a note of the "impressive findings, questions and opinions of the other person."</p>	2	44
まとめ	<p>総括する 対話とその応用方法の紹介、 解説との向き合い方について</p> <p>Summarize</p>	5	49

プログラム後	作品についての資料を手渡す。メモを回収する。 Hand out materials about the work. Collect their notes.		
--------	---	--	--

「自分の解釈を立ち上げる」という # 1 の内容か、対話型の鑑賞を幾度かやったことがある前提で行う応用の内容のため、このプログラム単独で行うのは効果的ではないと思われる。

"I don't think this program would be effective on its own, because it assumes that you've done some interactive viewing before.

準備物：

- ・画像のみの作品と、解説付きの作品画像が入れ子になった、A・B、2種の資料を用意。
- ・A3をサイズ折って使用。異なる資料を持った2名がペアになる。
- ・解説は、図録のテキストをそのまま使用。
- ・ABという記号と、赤青枠をつけて、判別しやすいようにしておく



A資料：

A作品=画像のみ

B作品=解説付き



B資料：

B作品=画像のみ

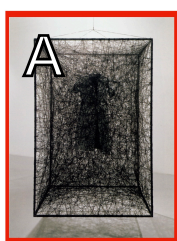
A作品=解説付き

聞き手

話し手

「作品B」について、相手に質問する。
(作品Bの解説を読んでいる)

「作品B」について感想を話し、
相手の質問に答える。
(作品Bの解説を読んでいない)



作品Aを鑑賞。
作品Bも鑑賞、解説を読む。

作品Bを鑑賞。
作品Aも鑑賞、解説を読む。

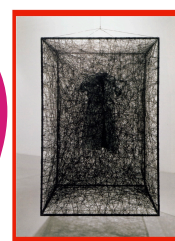
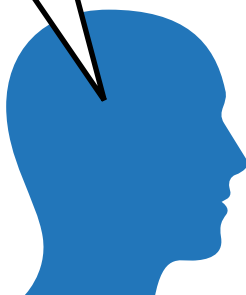
対話時間：約5分
役割交代

聞き手

話し手

「作品A」について、相手に質問する。
(作品Aの解説を読んでいる)

「作品A」について感想を話し、
相手の質問に答える。
(作品Aの解説を読んでいない)



作品Bを鑑賞。
作品Aも鑑賞、解説を読む。

作品Aを鑑賞。
作品Bも鑑賞、解説を読む。